

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：19330075

研究課題名 (和文) 契約文書からみた英領植民期ビルマ(ミャンマー)農村経済の研究

研究課題名 (英文) Study on the Village Economy of Colonial Burma (Myanmar) Based on an Analysis of Contract Documents (Chitti Sajouk)

研究代表者 高橋 昭雄

(東京大学東洋文化研究所・教授)

研究者番号：90282706

研究代表者の専門分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：経済史、農業経済学、植民地経済、アジア研究、ミャンマー、土地制度史

### 1. 研究計画の概要

本研究の目的は、イギリス植民地時代のビルマ(1986年から1948年)において作成された、通称「チッティサージョウツ」と呼ばれる土地の権利移動や借金に関する手書きの文書を、土地や建物の相続、質入、売買、小作契約等、役牛の質入や売買、金銭貸借、不動産や動産の競売、さらにそれらの組み合わせ等、書かれた目的別に分類・整理し、スキャナーとソフトを使ってデータベース化し、さらにこれを統計的に分析すること、そして最終的には、植民地期ビルマの農村経済像の再構築を図ることにある。そのためには第一に文書を収集することである。文書が大量に残っていると思われる下ミャンマーだけでなく、上ミャンマーや山岳地域でも文書を収集する。第二に収集した文書を分類・整理することである。これらをざっと読み、小作契約、質入、質流れ、相続、売買、贈与など仕分けする。第三にデータベース化することである。まずはミャンマー(ビルマ)語で、分類ごとに契約年月日、場所、当事者名、契約細目等の表を手書きで作成し、次にその表から英語でエクセルを使ったデータベースを作る。同時に文書をスキャンして、データベースに加える。第四にこれを統計学的に分析することである。これにはエクセルのアドインソフトを用い、回帰モデルや主成分分析を行なって、諸変数間の関係を究明する。

### 2. 研究の進捗状況

まず初年度は文書の収集に努めた。多くの文書が残されていると思われる下ミャンマーの諸地域においては、予想通り大量の文書を収集することができた。しかし、文書の持ち主が、破損したり、複数枚組の一部がなか

ったり、文字が不鮮明で読めなかったりする文書まで一括購入を要求し、選んで購入した場合は、より高い代金を求めたので、すべての文字を購入せざるをえなかった。これが後の分類過程で手間取る原因となった。さらに上ミャンマーや山岳地域にも足を伸ばしてみたが、本研究で求めるような文書を発見することはできなかった。この過程で、文書が切手収集家の手で国外に大量に流出していることが分かった。そこで、シンガポールの収集家を訪ねて、文書の撮影をさせてもらった。ロンドンでは英国図書館では研究対象期間である英領植民地期の土地関係書類を閲覧し、重要文書、必要箇所を複写した。またアジアアフリカ学院の特別室のあることが分かった植民地期の租税査定官ファーニバルのコレクションも閲覧した。また文書の収集家にも接触を試みたが、これは不成功に終わった。さらに収集した文書を分類し、データベースを作成している。現時点で、抵当文書1763枚をスキャンし、682契約について、契約の日付、場所、質権者、質権設定者、質物、期間、支払い方法、質の種類、収入印紙代等の項目を設け、データベースを作成した。同様に、質流れについては、質流れの理由と質権者の支払額を加えて、423枚スキャンし262契約をデータベース化、小作契約については、日付や場所の他に、地主、小作、小作期間、小作料の支払い方法、水田の場所と面積、地番、等の項目を設定し、317枚をスキャンし、244契約をデータベース化した。

### 3. 現在までの達成度

④遅れている。

(理由)

第1の理由は、研究代表者の病気である。2008年6月に頸椎ヘルニアを発症し、横になって寝るのもままならず、PCの前に座ることもできず、5ヶ月ほどの療養を余儀なくされた。さらに、2009年2月、本研究に関するミャンマーでの調査中にデング熱に感染し、入院治療後も肝臓機能の障害に悩まされた。この研究は研究代表者ひとりで行っているため、その病気療養は研究計画を大幅に遅らせることになった。

第2の理由は、ミャンマー国内の政治経済状況である。2008年8月の反政府運動とその武力弾圧、日本人記者の射殺事件等があった。ミャンマー国内の移動が制限され、ヤンゴン以外では十分な資料の収集が行えなかった。また、2009年末に本研究の対象となっている文書を偽造した者が検挙され、これを買うことが非常に難しくなってしまった。これは、市場経済化が進む中で、この文書の価格が高騰し、ミャンマー語も読めない収集家の関心を集めていることを示す事件であった。さらに、今年も総選挙の年であり、入国ビザの取得や国内移動がさらに困難さを増すものと思われる。

第3の理由は、文書の解読の困難さである。研究代表者はミャンマー語に堪能であるが、100年ほど前に、手書きで書かれ、文書ごとにその手書きが異なり、さらに誤字脱字が多いため、ミャンマー人の補助が会っても、読み進めるのに時間がかかっている。

#### 4. 今後の研究の推進方策

文書の収集枚数は増えたものの、「2. 研究の進捗状況」で述べたように、雑多な文書の混入も多く、分析の対象をなりうるような文書の枚数が、計画通りには集まっていない。ミャンマー入国や現地での収集は難しいかもしれないが、現地とのコネクションや外国の収集家のところでの写真撮影で、枚数を増やしていきたい。さらに、質入、質流れ、小作といった既存のデータベースの充実を図るとともに、売買、贈与、相続などの文書のスキャンとデータベースづくりも進める。とにかくこれらのデータベース構築が進まないと、統計分析に進むことができないので、当初計画にあった、統計分析は後回しにして、データ構築をとにかく急ぎたい。これは本人の研究ばかりではなく、これからミャンマー植民地経済史を研究する者にとっても役立つものである。ただし、小作に関しては、一部データの解析を始めたので、これに関しては、当初の計画通りに、6月にフランスで行なわれるビルマ研究世界大会で発表を行なう。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

高橋 昭雄「ビルマ米輸出統計の再検討と「国内」、国境、海外輸出量の変遷」『東洋文化』第88巻、2008年。

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕